

## あぶくまエヌエスネット、指導者12か条

- 1、よき兄であり、よき姉であれ！時には厳しく叱る！
- 2、寝食を共にし、一緒に遊ぶ
- 3、安全管理を万全に 常に緊張感を持って！
- 4、時間を守る ルールを守る
- 5、自ら気付く、動く！
- 6、スタッフ間の連絡連携。善し悪しを言えるチームワーク！独断の判断は禁物
- 7、自己コントロール(心身のバランス)、をしっかりとすること
- 8、声を大きく元気よく！そして笑顔！！
- 9、個性を大いに出す
- 10、創意工夫、あるものを有効に工夫する。失敗をおそれないで！
- 11、友情の大切さ、命の大切さ、体験の素晴らしさを伝えて
- 12、目いっぱいになるな！無理するな！後悔するな!行動せよ！！心に余裕を！！

これはあぶくまエヌエスネットが事業を積み重ねる中で、指導者として子どもたちに接する上で大切にしている事項です。

常に共通意識を持ちながら、スキルをあげてゆくよう努力しています。

## あぶくまエヌエスネット、体験交流事業推進にあたってポイント

- ①笑顔と元気 さわやかさはとても大切です。
- ②その人の姿勢になって伝える(子どもだったら、子どもの目線になってください)
- ③居心地がよい空間・・・整理整頓 楽しめる場所づくり このことがまた来たい！！と
- ④心からのメッセージ・・・さりげなく大切なことを伝えられるように、常に創意工夫の心、開拓の心を維持向上させてください。
- ⑤自分が楽しんでいるか！！ここが重要です。  
心が重たかったり、暗かったりしていると、すぐさま接している人に伝わります。その逆で楽しんでいると子どもでも、大人でも人は近づいてきます。
- ⑥接し方、関わり方。これにはルールはありません。  
自分なりに思うことは言動に現してください。良いこと、悪いこと。自信で反省すべき事。失敗する姿も見せてください。
- ⑦地域社会において、関わるスタッフは個人出はなく「あぶくまエヌエスネットの〇〇さん」という見方をされます。小さな地域社会です。自分が知らなくても、「あいさつ」をするという週間を身につけてください。
- ⑧メッセージの伝え方  
決して押しつけてはいけません。農的な活動は確かに大切です。ですが思いが強すぎるとメッセージを強要することになります。  
常に参加対象と相談しながら、または要望を聞きながら伝えて行くことが大切です。  
例えば、石窯があぶくまエヌエスネットにはあります。  
なぜ石窯か？これは休耕する畑、山に関わる地元の人が極端に少なくなった。山間の環境の急激な悪化はここを訪ねて来た人たちが心地よいとは消して思わない。整然と手入れがされている山里に「心地よい！」と感じるわけです。  
石窯は山里の環境維持保全のための物なんです。  
ですがはじめから体験に来た人に強烈なメッセージを伝えるのは危険です。単に石窯でピザを体験し食べたい！！と言う人には楽しんでもらい、2回3回来る中でそろそろ伝えるタイミング！！という時が来ます。決し焦らないことです。

## NPO法人 あぶくまエヌエスネット活動紹介

### 心に響く、心通わせる農山村田舎体験活動の実践 次世代へ『バトンタッチ！』

特定非営利活動法人 あぶくまエヌエスネット  
理事長 進士 徹

#### 活動の動機:

昭和63年山村生活は初心者マーク！！でした。我が子に安心して口に出来る野菜を食べさせたい！そんな思いはあるけれど、全く初めてで分からない。地域の人たちみんなが先生でした。鍬を持つ手。身のこなし、四季をうまく付き合う生き方。冬は雪が少ないマイナス10度は突き刺す寒さです。ですが笑顔で暮らしている人たちから学んだ事は、現代社会の大きな忘れ物を、気づかせてくれたのです。

私だけ直接体験を独り占めするのは「もったいない！」とおもい都会にこんな所がありますよ！！元気になりましょう！！と活動しているうちに現在のNPOに発展してきたというわけです。

活動内容: 心に響く、心通わせる体験活動を具現化する。

生きる基本＝食べる そのためには、どうしたらいい??テーマ「土・自然から学び共に生きよう」と結びつく活動を実践しています。

#### ① 食育農体験:

\* 「石窯オープンピザパン工房」

自分でトッピングしてオリジナルピザ焼き体験が大好評！です。  
環境保全のためでもあります。家族、学年行事、食育研修など

#### ② 家族対象:

\* 「親子週末アグリ塾」月1回の活動 土に触れ、種まきから収穫まで実践。

\* 田舎体験場所1泊2日コース

イ、早春場所・3～4月(散策&ふきのとう天ぷら)

ロ、新緑場所・5～6月(山菜とり)

ハ、夏場所・7月上旬(ホタル&星)

ニ、秋場所・9～11月(旬の野菜で料理)

ホ、厳冬場所・1～2月(薪割り)

#### ③ 子ども対象:

A、「夏・冬・春休みネイチャーキッズ」2泊3日～2週間宿泊キャンプ。

NPO法人教育支援協会との連携協同事業です。

B、「里山子どもレンジャー」地域の子供たち対象

#### ④ 大人対象:

「大人の山村留学」2泊～2週間程度

「女性のためのヘルシー田舎生活体験」

「通勤マイ・ツリーハウスビルド講座」

#### ⑤ 他

山村都市交流指導者育成・講師講演・職員研修・体験活動受託・宿泊・里山、河川の環境保全

・将来の夢「山村都市体験交流事業の社会システム化」

農山村の知恵を子ども達に！バトンタッチ

都市部の人々が農山村へ行くことを日常化することです。農山村における少子高齢化は、今後拍車をかけて進みます。

地域の存続さえこのままでは、懸念される現状にあります。子ども達に汗をかくこと、土に触れることの大切さを一緒に伝えて伝える「多世代交流のシステム構築」です。日本の季節を大切に作るさまざまな行事、地域に伝わる風習文化など継承される仕組み作りに今後尽力していきたいです。

あぶくまNSネットの取り組みが、徐々に広がり日本社会システムの中に、さまざまな関係機関と連携協働を地道ですが働きかけていきたいと思えます。戦後経済重視で歩んだ日本の汚点は環境を破壊し、生きる人の心の過疎を生んでしまいました。

「土・自然から学び共に生きるスタイル」こそが夢や希望のもてる日本社会構築に結びつくことを確信しています。手法は違っても全国にこのような理念で取り組んでいる連携を今後強化して行くことが求められます。具現化を急ぎたい今日この頃です。

進士 徹(しんし とおる)略歴

昭和31年9月11日生 東京都大田区出身

昭和54年3月 駒沢大学文学部社会学科社会福祉専攻コース卒業

昭和54年4月 社会福祉法人「ねむの木学園」生活指導員

昭和63年3月 家族で鮫川村に移住 山村留学「たけとんぼ学園」共同設立

平成7年7月 自然体験学校「WARERA元気倶楽部」として独立スタート

平成9年12月 体験民宿登録(財)都市農山漁村交流活性化機構 登録番号70018号

平成10年4月 交流部門:「あぶくま自然大学」&宿泊部門:「WARERA元気倶楽部」

平成15年2月 NPO法人あぶくまエヌエスネット 設立

平成16年1月 第2回オーライ！ニッポン大賞ライフスタイル賞 受賞

著書「まさかの時の生き残り塾」家の光協会

福島県ツーリズムガイド連絡協議会 会長

ふるさと福島塾「地域興しマイスター」

福島県青少年県民会議 講師

(財)都市農山漁村交流活性化機構)GTインストラクター エスコーター)認定

社団法人 日本ネイチャーゲーム協会 インストラクター

NPO法人 自然体験推進協議会 トレーナー2種

社会福祉法人 なのはな保育園理事

# 1 体験活動体系

			幼児期 前期	幼児期 後期	児童期 小学生	青年期 中高生
体験活動	生活体験	ねらい 身の回り、つきあいなど、日常生活の知識・技能を習得し、生への自覚と自信を持つこと。	期待される能力 ・基本的な生活習慣 ・社会規範能力 ・コミュニケーション能力 ・自立心 ・思いやり ・人間関係能力 ・問題解決能力	[Timeline bars for Life Experience activities]		
		ねらい 自然との接触体験により、自然の美しさや厳しさを知り、自然を理解し、好奇心や畏敬の念を養うこと。	期待される能力 ・命の尊さ ・豊かな感性 ・自然環境への理解 ・主体性 ・問題解決能力 ・教科との関連 ・規範意識の醸成 ・人間関係能力 ・基本的な生活習慣 ・忍耐力	[Timeline bars for Nature Experience activities]		
		ねらい 友人との共感、競争、共働、他者とのかかわりを通じ、規範意識、協調心、自立心の獲得を促すこと。	期待される能力 ・人間関係能力 ・コミュニケーション能力 ・主体性、自発性 ・協調性 ・倫理観 ・基本的な生活習慣 ・規範意識の向上 ・他者への思いやり ・忍耐力	[Timeline bars for Group Experience activities]		
		ねらい 興味、関心、特技、趣味の追求、自分探し、ものづくり、美や創造の感動を得ること。	期待される能力 ・学ぶ意欲の高揚 ・豊かな感性 ・自己実現 ・感動体験 ・他者のよさ ・成就感、達成感	[Timeline bars for Creative Experience activities]		
		ねらい 農業、就労、産業体験により、勤労の尊さや収穫の喜びを知り、適した職業や進路を探ること。	期待される能力 ・自立意識 ・職業観の確立 ・勤労意欲の高揚 ・仕事への知識・理解 ・社会の一員としての自覚	[Timeline bars for Labor Experience activities]		
		ねらい ボランティア活動などにより、社会の一員としての役割や感謝、思いやりの心を習得する。	期待される能力 ・ボランティア意識の高揚 ・人間関係能力 ・郷土愛 ・思いやりの心 ・社会の一員としての自覚	[Timeline bars for Social Service activities]		

※ 期待されるものは、単独のプログラムによって達成されるとは限らない。それぞれ、発達段階により、ねらいを絞ったり、相互に関連づけたりしてプログラムを計画する必要がある。

※ 社会奉仕、ボラは、社会奉仕体験活動・ボランティア活動

※ [Shaded bar] は、重点的に体験させることが望ましい時期

## 2 発達段階に応じた望ましい体験活動～人間性・社会性の育成～

発達課題		生活体験	自然体験	集団体験	創作体験	勤労体験	奉仕体験	期待される能力
幼児期	前期 2～4歳	両親の手伝い：家事を手伝いながら両親とたくさん会話をし、家族の役割を学ぶ。 ○言葉の習得 ○仲間関係の発達 ○自己表現 ○両親・兄弟姉妹・や他人と情緒的な結びつき ○感情(嬉しい・悲しい・美・醜等) ○良心の発達 ○自己中心的な思考から他者思考	家族で外出する：色々な動物、植物と一緒に見る。 外遊び：家族と一緒に公園に出かけ、虫探し、草つき、小動物に触れる。	両親や友達と遊ぶ：けんかしたりしながら、みんなで遊ぶ。 集団遊び：友達や兄弟と一緒に鬼を決め、鬼ごっこをする。	粘土で形をつかったり、絵を描いたりする。興味のあるままに創作する。 粘土・泥遊び：自分の知っているものを作ったり、家族に教えてもらいながら一緒に作る。	社会見学：様々な職場に行き、仕事を観察する。 家族の仕事見学：家族の仕事の内容を見せてもらい、実際にやらせてもらう。	ごみの分別：両親がごみの分別をしているところを見る。 ごみひろい：親子で、一緒に近くの公園や道路のごみを拾い分別していく。	基本的な生活習慣 あいさつ等の礼儀作法、生活様式、文化的・社会的しきたり
	後期 5～6歳	相互訪問：親子で親戚や近所の家を訪問し、礼儀、会話、その他行動など親の動きを見る。 母親の家事の手伝い：食事、洗濯、掃除、花の水遣り等を母親と一緒にやってあげる。	地域探検：地域にある自然環境(川・海・山など)の中で、親や友だちと遊びながら、生き物の様子や植物を見たりふれたりする。 海や山、星の観察：自然の雄大な景色や時間の悠久を体験する。(自然への畏怖の感情)	集団遊び：鬼ごっこ、かくれんぼ、長縄跳び、二人三脚等の遊びなど。5～10人で年長者から幼児まで年齢の幅のある集団、男女と一緒にプレーする。	歌、合唱活動：親や友だちと一緒に仲良く楽しく歌を歌う。 作品作りと展示(発表)：絵や書、作文などを制作し展示・発表して、他人からの批評や努力への賞賛を受ける。	作物作り：親と一緒に毎日作物の世話をし、収穫の喜びを味わう。 父親、母親の職場訪問：身近な家族の職場を訪問し、仕事をしている姿を見る。一緒にやってみる。机に座ってみる。	道路や公園でのごみひろい：家族と一緒にゴミや空き缶などを拾いきれいになったことを実感する。	
児童期	前期 7～9歳	家族の中で役割を得る：家の手伝いを日常的にする。 家事の手伝い：食事の準備、後片付け、風呂の掃除を役割分担を決めたり、ルールを決めて手伝う。	キャンプ：家族や地域の人たちとキャンプに行き、自然の中での生活を体験する。 山登り：動植物を事典で調べたり、大人の人や友達に聞いてお話を聞いたり、友だちと自然の美しさや感動を共有する。	チームをつくる：スポーツをする。友だちと仲良く協力し、一生懸命にゲームに取り組む。	自分の思いを作品にする：一生懸命に作品を仕上げながら友だちのよいところを見つける。 おもちゃ作り：友達と材料を分け合いながら、身近なものを使っておもちゃ作りをする。	両親の職場訪問：両親が実際に働いている様子を見る。 職場訪問：友達と一緒に、それぞれの仕事の喜び、楽しさ等について、インタビューをする。	募金活動：ねらいを知り、友だち協力して、地域の人に説明して活動する。 異世代間の交流：祖父母のお手伝いをしたり、昔の遊びを教えてもらう。幼児に遊びを教えたり面倒を見てあげる。	人間関係能力 社会規範能力
	後期 10～12歳	宿泊学習：集団生活の中でのルールを理解し、生活環境の様子や決められた時間に従って、友だちと協力しながら行動する。 家庭や学校における役割分担：家では玄関の掃除、風呂の準備など、学校では掃除活動等の決まった仕事を継続的に分担する。	フィールドワーク：友だちと協力してきまわりから行動する。 自然の恵みを受け取る：釣や潮干がり、山菜やキノコ狩りをして得たものを食べたり、沢水を汲んで飲んだり、竹や木を切って遊びの道具を作り、遊ぶ。	集団活動への参加：委員会活動、育成会活動など友だちと関わる活動へ積極的に参加する。 チーム・スポーツへの参加：練習を積んで対抗試合をし、勝ったり負けたり。失敗を悔んだり、アシストや応援、ラブプレーやフェアプレーの体験をする。	音楽演奏：それぞれのパートで、約束に従って、教え合ったり評価し合ったりしながら演奏する。 合唱・合奏、パート練習を繰り返して、緊張して発表会に臨む。	職場訪問：時間やルールに従って職場で働く地域の大人の姿を見たり、話をしたりする。 様々な職業、職場を見学する：工場、会社、農林漁業の現場など多くの見学訪問を通じて、多くの職種を知るとともに、仕事における楽しさや充実感を聞かせる。	公共施設美化活動：友だちや、地域のひととともに活動したり、話をしたりする。 幼児の世話と老人との交流：幼児と一緒に遊び、世話すること。老人の話を聞いたり遊んでもらうこと。	
青年期	前期 13～15歳	家事の役割分担：日常生活を営む上での家事を分担する。 地域活動：地域の活動に参加し、大人たちの活動を見て、自分のできることを積極的に探す。	キャンプ：テント生活や食事づくりなど仲間と協力して行う。 登山：仲間とともに計画を立て、自然を守っていくための環境、生物調査をする。	地域に伝承される行事：地域の大人達とともにいろいろな話をしながら活動する。 イベントの企画、運営：国際交流、音楽会等、自分たちの目標を設定し、協力して活動する。	地域に伝わる民話：地域の高齢者の指導を受けながら演劇をする。 演劇活動：仲間と意見を交換し、どのように演出等をしていくか話し合いながら、舞台発表に向けての一定の期間、協力し作品に取り組む。	職場体験：自分の興味がある職場に行き、仕事をさせてもらう。 職業体験：近所や、地域での活動を手伝ったり、組織の一員として、実際の職場に行き体験し、分からないことなど、自分で聞き確かめながら、取り組む。	老人介護施設等を訪問：高齢者とふれあいながら、童謡や昔ながらの遊びをする。 継続的体験：自分のできることは何かを考えボランティア活動に取り組む。	社会的役割能力
	後期 16～18歳	地域活動：交通安全運動や、ごみ拾い運動など地域で日常的に行われている活動に積極的に参加する。 地域活動：地域の年中行事や祭りなどに参加し、古事や大人からの指示のもとに、地域の約束事やしきたりに従って与えられた仕事や役割を果たす。	自然保護活動：地域で活動している大人たちと積極的に関わり、地域の自然環境の様子について話したり、地域づくりに参加したりする。 縦断登山：5～6人のグループにより3～5泊で山岳を縦断する。計画書を作成し、食料や装備を分担し、リーダーの判断により協力しながら安全に行動する。記録を取る。	組織的な活動：生徒会活動や、地域活動などの企画、運営に積極的に参加する。 演劇活動：一定期間を通じて準備したり練習し、演出・出演・道具・照明・音声などの役割分担の元で演劇を作り上演する活動。	伝統工芸、文化活動：地域に伝わる伝統文化を受け継ぎ、大人達と活動する。 就業体験：自分の希望する職場へ出向き、働く人の姿をみたり、話を聞いたりしながら仕事をする。	アルバイト：企業などの社会の中で役割を果たし、労働の対価を得ることの楽しさを体験する。 介護体験：老人や障害者施設等において、長期的・継続的な奉仕活動に取り組む。	ボランティア活動：地域づくりに取り組む人たちとともに、ボランティア活動に参加する。	



平成20年度 文部科学省委託事業  
「総合的な放課後対策推進のための調査研究」

## 2 放課後子ども活動支援モデル事業報告書

(4) 地域の多様な主体が連携・協力した取組事業のテーマ  
山間過疎地域児童と国際交流連携を図り放課後子ども対策モデル



特定非営利活動法人 **あぶくまエヌエスネット**

〒963-8403 福島県東白川郡鮫川村赤坂東野字葉貫57

電話・FAX **0247-48-2508**

e-mail [abukuma@basil.ocn.ne.jp](mailto:abukuma@basil.ocn.ne.jp)

URL <http://www2.ocn.ne.jp/~abukuma/>